



## 2021年度年末手当シリーズ⑥

# 職場の怒りの声を加入につなげ、春闘を勝利しよう!

11月15日東日本ユニオンは「2021年度年末手当に追加支給を求める申し入れ」の団体交渉を行いました。2.0ヶ月の会社回答に対して怒りや不満の声や、東日本ユニオンの追加支給申し入れに対する期待の声が、職場のJR労働者から多く届きました。

## 昨年より下がることは認められない! 社員の生活はどうなるのか?

「定期昇給も削られ期末手当も前年比で下げられては生活ができない」「コロナ禍から業績が回復した時に支給月数は戻るのか」「業績が良かった時に支給月数に反映せず、悪くなったらそれを理由に削っている。安定支給ではなかったのか」「業績予想で黒字を見込んでいて、下方修正した経営責任はどうなのか。社員に責任があるのか」「赤字を理由にしているが社員が望まない間内改良を実施しておいて、本当に経費削減に取り組んだのか」「超勤抑制のためにもっと研修や各種活動を控えることもせず、社員の賃金・手当を削るのか」「支給月数を下げておきながら成績率適用している。支払い能力があるではないか」「追加支給を強く求める! 2.0ヶ月ではモチベーションが上がらない」

## 私たちの未来を切り拓くために東日本ユニオンに加入しよう!

追加支給要求に対して経営側は「2.0ヶ月が最終回答である」との姿勢を崩しませんでした。確かに業績は赤字であり業績予想も見直す状況にはありますが、昨年度比は増収増益です。少なくとも昨年度の支給月数 2.2ヶ月を下回することはありえないのではないのでしょうか。職場では多くの不満の声があります。しかし、いくら愚痴を言っても現状は変わることはありません。賃金交渉ができるのは労働組合だけです。自分たちの未来を切り拓くためには行動するしかありません。JR東日本で働く社員の皆さん、東日本ユニオンに加入して労働組合の力で納得のいく賃金・手当を勝ち取りましょう!